



学校だより

5月号

横浜市立菊名小学校

令和4年4月28日

思いや願いを大切に質の高い学びへ

校長 野間 義晴

季節は力強くエネルギッシュな初夏を迎えました。旧暦5月は「さつき」と呼ばれ、「早苗月」とも言われるように、さまざまな植物の種や苗を植えるのに適した時期でもあります。

本校では今、低学年の子どもたちが生活科でそれぞれに花や野菜の苗を植えようと計画しています。1年生は、初めてお世話をする花の種を何にするか考えるなかで、2年生は、昨年度の学習をいかしながら、「何の野菜を育てようかな。」「どんなお世話ができるかな。」と、思いや願いをふくらませていました。こうした学習へのわくわく感が、どの学年でもとても大切だと考えています。このわくわくとした思いや願いをどのように学習の終わりまで持続できるようにするかを考え、学習活動を工夫していきます。子どものやってみいたいという内なる思いが具体的な活動や体験を支える原動力となり、活動や体験において子どもが気づきを生み出したり、その質を高めていったりするための大切な要素になるからです。

「黒い種から本当にいろんな色の花（あさがお）が咲くのかな。」「なんで種は黒いのかな。」「赤い種はあるのかな。」と、種についてのいろんな「おやっ?」という、「はてな」が生まれてきます。そうした多様な気づきを認めつつ、「きつこうだろう。」という自分なりの考えをもち、実際にやってみて、「はてな」についてみんなで話し合うなかで、「なるほど。」「そう



か。」と発見があります。その発見に対して「でもさあ。」と新たな「はてな」が生まれ、子ども自身が「学びのエンジン」をかけて進めていくのです。「おやっ?」「きつと。」「そうか。」「でもさあ。」といった小さな発見や気づきを繰り返し、思考や表現を積み重ねることで学びが深まっていきます。

こうした学びは授業時間だけで完結するものではなく、日々の生活を連続して生活を豊かにすることが実現していくものと言えるでしょう。そうした学習のプロセスを大切にしていきながら、令和の時代にふさわしい「質の高い学び」への進化につなげていきたいと思えます。